



小坂旋風を「長崎」で



決勝

■決 勝

チーム	1	2	3	4	5	計
三角小	1	0	0	0	0	1
小坂Jr	3	0	0	0	×	3

▷奪三振 (6) ▷被安打 (2)
▷三塁打 峰孝太郎 ▷二塁打 坂田大士

■準決勝

チーム	1	2	3	4	5	計
隈 庄	0	0	0	0	0	0
小坂Jr	4	1	0	0	×	5

▷奪三振 (9) ▷被安打 (3)
▷本塁打 椋田大

■準々決勝

チーム	1	2	3	4	5	計
小坂Jr	0	0	3	0	2	5
本渡北	0	0	0	0	0	0

▷奪三振 (6) ▷被安打 (1)
▷本塁打 坂田大士 ▷三塁打 山地雄晨

チームが今ひとつに
全国で23人の歴史を刻め

今大会も優勝候補の最有力に挙げられ、他チームから徹底マークにあいながらも、その重圧をはねのけ熊本の頂点をつかんだ小坂ジュニア。

この優勝の舞台裏にはある一つの「合言葉」があった。「孝太郎を長崎へ」

主将坂田大士は「(今年6月)長崎への修学旅行で(峰)孝太郎が体調を崩し途中で帰ってしまった。だから絶対に優勝して長崎へ連れて行く」と準々決勝前に話していた。彼らには仲間との固い絆があり、優勝するための理由があった。だからこそチームが一つに結束し、ユニホームが泥だらけになって、全力で自分たちの夏を勝ちとることができた。

全国大会は7月31日、長崎県南島原市で開幕する。過去二大会で最高戦績ベスト16の小坂ジュニアは今大会、選手23人で一体どんな「小坂旋風」を巻き起こし歴史を刻むのだろうか。御船町の名前を背負い、全国の大舞台で戦う小坂ジュニアを町全体が応援している。輝け、小坂の球児たち。

決勝トーナメント
監督のげきに選手奮闘

13日の準々決勝は古豪の本渡北小(天草市)と対戦。試合直前、円陣を組んだ選手たちに岩野勇監督が「お前たちは十分に練習をしてきた。絶対に全国大会へ行くぞ」とげきを入れ、ナインに元気を吹き込んで送り出す。

先攻の小坂ジュニアは3回、四球と相手エラーで無死二・三塁の絶好機に、1番坂田大士が左中間への3点本塁打で先制。5回には、二死一塁から連続安打で2点を加え相手突き放す。結果、5-0で勝利し準決勝へと進む。

序盤に試合を決めた
決勝へ導く主砲の一撃

優勝まであと二つ。準決勝の相手は隈庄小(熊本市)。小坂ジュニアは1回表、一死二・三塁で4番峰孝太郎が左前打で2点を先制。さらに6番椋田大が右翼線を破る2点本塁打を放ち、試合を優位に進める。しかし2回裏、小坂ジュニアに2死二・三塁のピンチが訪れる。ここでエース

Interview



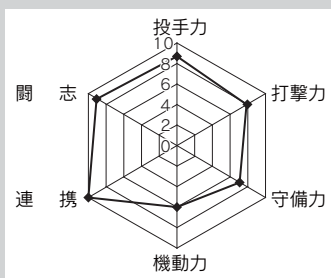
岩野 勇 監督

史上最高の総合力

選手は毎日3時間の練習と遠征試合で大きく力をつけました。今年は、これまでで最も投打のトータルバランスがとれたチームと言えます。全国大会では、守備からリズムをつかんで一昨年の戦績を上回るベスト8が目標です。

チーム分析

●小坂ジュニア
平成8年創部。部員は小坂小学校児童のみで構成。ユニホームカラーは白。闘将岩野勇監督が指揮を執る14年目のチームは県内の主要大会で数多くのタイトルを獲得。現在、部員23人



山地雄晨が気迫の投球で打者を三振にきつてとる。その後は完壁に相手打線を抑え込んだ小坂ジュニアが5-0で完勝し、3年連続で決勝の舞台へと駒を進める。

因縁の相手を撃破
全員ソフトで熊本制覇

決勝の対戦カードは三角小ジュニア(宇城市)。今春の西日本大会の準決勝で敗れ涙をのんだ因縁の相手だ。試合は1回から動く。エース山地雄晨の速球が相手打線につかまり今大会初失点を献上する。しかしその裏、小坂ジュニアが反撃ののろしを挙げる。1番坂田大士が右中間二塁打、2番山地咲希が犠打で坂田を三塁へ進める。この絶好機に3番山地雄晨、4番峰孝太郎、5番本田貴大の頼れるクリーンアップが長短3連打で3点を挙げて逆転に成功。打線の援護をもらったエース山地は緩急自在のピッチングと、鉄壁の守備陣が守りきった小坂ジュニアが3-1で決勝を制し、大会史上初となる三連覇を成し遂げた。